

新しい風

「ふじのくに型福祉サービス」は、垣根のない福祉を目指し、平成22年から様々な取り組みを行い、このガイドブックでも紹介をしてきています。スタートから8年が経過する中で、県内各地では、公的サービスの枠にとどまらず、住民同士が支え合い、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるようそれぞれの試みが始まっています。今回は、東伊豆町、富士宮市、牧之原市で活動をする3団体の事例を紹介します。

憩の家 みち

(牧之原市)

里山のおだやかな風景が広がる牧之原市郊外にある「憩の家 みち」。「困った時はお互い様」の理念のもとに、高齢者、障害のある人、子ども達とスタッフとが「〇〇してもらおう〇〇してあげる」関係ではない、「家族福祉」を目指して、独自の活動をしています。

「みち」の“家長”である石津道弘さんは母親の病気をきっかけに26歳で福祉の道へ。それまで生きてきたのとは全く違う世界に大きな戸惑いと葛藤があったと言います。

「介護ビジネス、福祉サービスという、なんでもお金に換算する方向性は果たしてよいのでしょうか。自分ももっと人間味あふれる生活共同体として福祉にかかわりたい。その一心で家族福祉という言葉を使っています」と石津さん。

平成17年に立ち上げた「難病支援を行う生活ボランティア道」が第一歩。翌年、ボランティア仲間と共に法人格を取得し、通所介護事業所「憩の家 みち」として、県の指定を得ました。

現在は、介護保険事業として「憩の家 みち」を運営すると同時に、生活支援ボランティア「道」の活動を実践。「もともとボランティアからスタートしましたが、ボランティア

では飯は食えない。それで介護保険事業としてデイサービスを行い、その事業収益をボランティア事業に還元しています」と石津さんは言います。

介護保険というオフィシャルな制度の中では解決できないさまざまな課題を、ボランティア精神で立ち向かう中で、ここならではのユニークなアイデアも生まれました。そのひとつが、県内初のTポイントカードの導入です。「ここでの食事代やおむつ代等の実費にポイントがつくようにしました。私達にとって、利はないのですが、ご利用者さんやご家族にとってはポイントがたまると好評です」。また、平成30年4月から、認知症高齢者の就労ボランティア活動として「みち働き隊」が始まりました。スタート当初はメンバー3名で、地域企業や個人宅へ仕事に出かけるというものです。

石津さんの福祉への熱い想いがスタッフ、利用者や地域の皆さんに、着実に伝わっています。



保育園へはウルトラマンの姿で訪問

美味しいご飯が炊きあがる「かまど」が自慢

<憩の家 みち>

■通所介護施設として

- 定員19名
- 利用者2名に対してスタッフ1名を配した個別ケア実践
- 畑や木工、手芸、料理、散歩など好きなことを自由に

■ボランティア活動として

- 「居場所」～子ども、高齢者、障がいのある方
- 難病患者さんの外出支援
- 車椅子、ポータブルトイレ、歩行器等の無料貸与、車椅子車輻無料貸し出しや運転代行
- 非行、引きこもり児童等への支援
- 講演活動

牧之原市勝田 816-3-2
tel/fax 0548-28-0223
<http://www.michi222.jp/>



難病の方の外出を積極的に支援

認知症にやさしい町づくり連絡会 ニューサマーオレンジ

(東伊豆町)

高齢化率43.2%と県内でも高齢化が進む東伊豆町では10年程前からキャラバン・メイト活動が始まっています。認知症サポーター養成講座を受講した町民の数が平成29年には3,000名近くに達し、地域住民の支え合いによる高齢者福祉の推進が活発に行われています。

平成26年にはキャラバン・メイトの声かけから活動が発展し、「認知症にやさしい町づくり連絡会ニューサマーオレンジ」が生まれました。連絡会は、キャラバン・メイトに加え、主任ケアマネージャー、医療ソーシャルワーカー、弁護士、住民ボランティア、当事者等が参加しています。活動の幅が広がり、翌年から認知症カフェ「ニューサマーオレンジ」開催、「住民と介護家族のためのあんしん支え合いマップ」発行や、町内での徘徊模擬訓練(声掛け訓練)を行い、認知症になっても、介護が必要な状態になってもその人らしく生活できる地域を目指して、定期的に連絡会を開いています。



連絡会の皆さん

現在、認知症カフェは町内2カ所で開催しています。(稲取、奈良本)それぞれ月1回の開催(10時～16時の間で出入り自由、利用料金200円)で、運営はニューサマーオレンジメンバーと住民ボランティアが担っており、各所とも20～25名前後が参加しています。お茶やお菓子を囲んで、おしゃべりや小物作りをしたり、講話を聞いたりするほか、相談会も行っています。



稲取のカフェの様子

東伊豆町地域包括支援センター
tel 0557-95-1106
■ニューサマーオレンジ in 稲取
東伊豆町稲取 348-2 ダイロクキッチン
■ニューサマーオレンジ in 奈良本
東伊豆町奈良本 252-1 奈良本区公民館

若年性認知症の人の仕事場 木工房 いつでもゆめを

(富士宮市)

富士山のふもと富士宮市で、グループホームを運営する有限会社INB(代表 稲葉修氏)が、当事者の希望にこたえて、平成25年12月に、多くの支援者とともに、若年性認知症の人や高次脳機能障害の人の働く場として、木工房「いつでもゆめを」を開設。

全員が従業員として、日々、木工製品の研磨や塗装による仕上げのほか、元営業マンによる営業活動も行っています。従業員から教えてもらったのは、「仕事は、福祉サービスにないもの、それは、社会の一員として、人間として生きている実感を持てる」ということでした。

設立から4年が経過し、現在は自社開発の主力商品、車いす用体重計「ケアスケールふじこちゃん」を製造販売するなど仕事を通じて社会とつながる取組を実践しています。あたたかくてやさしい、そして少しだけ便利な木工製品をつくる、「いつでもゆめを」はそんな工房です。



車いす用
体重計製作の様子



木工房「いつでもゆめを」のメンバー

木工房「いつでもゆめを」
富士宮市杉田 1020-2 tel 0544-25-3747